

伊木力小学校保護者様

令和7年度学校評価（学校関係者評価）の結果について

諫早市立伊木力小学校
校長 黒田 剛

春暖の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

標題につきまして、昨年末に学校評価アンケートを実施いたしました。その後、評価結果を分析・検討し、さらには学校評議員及び学校支援会議の方々に評価結果と次年度へ向けた取り組みを報告し、ご意見をいただきました。その結果を下記の通り、お知らせいたします。

いただいたご意見をもとに次年度も信頼される学校創りに努めてまいります。
今後ともよろしく願いいたします。

記

1 課題と改善策

課題	改善策
<p><あいさつの習慣化> 昨年度と比べて改善しているが、学校以外の場でのあいさつの習慣化が必要である。</p>	<p>「あいさつ」に関して、昨年は教職員が16.7%と低かったが、本年度は60.0%になり上昇している。数値としてはまだ不十分であるが、昨年度の課題を受け、本年度は児童会活動や生活指導等を通して、学校が一丸となって「あいさつ」への意識の喚起や継続に取り組んだ。その結果、昨年度よりは改善傾向、成長途上にある。一方で継続的なあいさつの定着や、学校以外の場でのあいさつには課題がある。継続的な指導が必要である。教職員が目指す児童の姿を改めて確認し共通理解をし、家庭と連携しながら、指導や称賛に取り組むことでさらなる改善を目指していく。</p>
<p><ねばり強さの育成> 児童の意欲を引き出し、最後まで粘り強くやり抜く心を育てる必要がある。</p>	<p>「ねばり強さ」の評価について昨年の保護者の評価が86.2%に対して、本年度は67.6%と低下している。「家庭学習」の評価も低下していることから、学習にねばり強く取り組む姿が家庭に伝わりにくい状況であることが予想される。また学校での様々な活動に関しても児童の意欲的な取り組みや最後まで責任をもってやり抜く意識が不十分な場合が見受けられる。児童の意欲を引き出し、それを継続させていくような指導がさらに必要であると考えられる。</p>
<p><コミュニケーションの緊密化> 児童が話しやすい環境を整えていく必要がある。</p>	<p>肯定的な評価が、保護者が79.4%、教職員が90%であるのに対して児童の比率が68.8%と低い。これまで以上に「児童が気持ちや考えを表現しやすくなる」ような「雰囲気」「表情」「関係づくり」などを築くことで改善を目指していく必要がある。教職員の気持ちや取組が児童に伝わるよう努力を重ねていく必要がある。</p>
<p><家庭学習の充実> 学校と家庭が連携し、授業等と家庭学習の繋がりを明確にする必要がある。</p>	<p>「家庭学習」に関して昨年の保護者の肯定的評価が83.3%であるのに対して、本年度は61.8%と低下している。これは家庭学習の内容や児童の意欲の喚起不十分、提出状況の把握に連動した称賛や声かけの不足等が考えられる。また学級懇談会や学級通信による、家庭学習の連絡体制を整え、家庭と学校の連携の強化を行っていく必要があると考えられる。</p>

2 学校支援会議及び学校評議員の皆様からのご意見（一部抜粋して記載しております）

- きちんと挨拶が出来る子が多くない印象があります。まずは「ハキハキ」とあいさつが出来るよう、指導をしていただきたいと思います。
- 児童への質問の表現（ことば）が難しく、理解できていない部分があるのではないかなと思っています。例えば、質問8児童との会話やコミュニケーションのことがあります。児童へは、「先生方に自分の気持ちを話すことができますか」と問われています。それぞれへの質問のニュアンスが異なっているような気がします。難しいのでしょうか。
- 例年、評価内容はほとんど変わっていないのであれば、昨年度の評価数値を列記して、どの様に改善、低下しているのか？数値で示した方が判りやすい。又、改善された項目について、何をしたのか？又、どの様な行動をしたのか？具体的に示せる内容があるなら表記した方が良いと思います。